

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-14-4/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議等出席

文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。世界遺産委員会（ドーハ、2014（平成26）年6月15日～25日）、奈良文書20周年記念会合（2014（平成26）年10月22日～25日）、ICOMOSの総会（フィレンツェ、2014（平成26）年11月9日～14日）、ICCROMの理事会（ローマ、2014（平成26）年11月17日～20日）、無形文化遺産政府間委員会（パリ、2014（平成26）年11月24日～28日）

世界遺産委員会では、事前調査や会議の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。奈良文書20周年記念会合、ICOMOS総会、ICCROM理事会では、国際情報の収集に努め、各国の専門家と情報交換を行った。無形文化遺産政府間委員会については、審議の要約を作成した。

2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究

アメリカ国内には2万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。また、欧米の美術館の果たしている歴史的・社会的役割は、日本における文化財保護を考える上で、大いに参考になる。以下の美術館において、所蔵日本美術作品及び作品管理状況についての調査を行った。

2015（平成27）年3月9日～14日 メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館

3. 対訳法令集シリーズの刊行

本年度はシリアについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。

4. 選定保存技術に関する調査

日本の選定保存技術の伝統や技術を広く国内外に発信していくために、蒔絵筆（京都）、本藍染（滋賀）、檜皮採取（兵庫）、左官（東京）、玉鋼製造（島根）、手漉和紙用具製作（愛媛）についての調査を実施した。また、日本の文化財や当研究所の果たす役割についての理解を促進するために、カレンダーを作成した。

5. 台湾師範大学との研究協力

台湾に所在する日本関係の文化遺産の調査・研究、保存修復に関する研究、人材育成、情報共有などに関して協力・交流を行うために協定書を調印し、先方から特に要請のあった染織関係の講座を開講した。

発表

- ・ 境野飛鳥「日本の文化財保護」史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ 東京文化財研究所 14.7.3
- ・ 二神葉子「第38回世界遺産委員会」第16回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会・文化遺産保護の国際動向 15.3.2

②国際協力・交流等 Area10

刊行物

- ・『各国の文化財保護法令シリーズ [19] シリア』東京文化財研究所 15.3
- ・『国際資料室蔵書目録』東京文化財研究所 15.3
- ・文化財を守る日本の伝統技術 2015.4.1～2016.3.31 カレンダー（壁掛け版・卓上版）東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、新免歳靖、渡部妥子、高多加奈子、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）